

第12期短期講座「日本伝統芸能と音楽の世界」:北見先生の第2, 3回講義レポート

第2回講義は5月8日(水)クリエイトセンター204、205教室で行われた。2回目の講座で、受講生も緊張することなく講座に参加することができている様子であった。教室がすこしばかり空間的余裕ができて落ち着いて講義に集中できるようになった。



第2回海外から見た日本音楽

日本における音楽の近代と現代を考察し、大きな影響を与えた外国人シーボルト、ディットリヒなどの紹介、楽譜・貴重な音源を聞くことができた。

第3回講義は6月12日(水)クリエイトセンター205が取れなく受講生の皆様にはご面倒を掛けることになったが近くの新しい茨木市文化・子育て複合施設おにクルの7階第2教室での講義となった。



第3回 唱歌と童謡～西洋音楽の移入唱歌と学校唱歌の歴史と変遷

西洋音楽の移入童謡とは、子供に歌われることを目的とした創作歌曲。残された音源により唱歌や童謡を聴いた。講義では、受講生にとって懐かしい唱歌や童謡の解説と鑑賞があり、貴重な音源に耳を傾けていた。

6月12日は午後からの活動として参加者26名CA2で国立文楽劇場での文楽鑑賞教室に行った。初めに「二人三番叟」で躍動的な人形の舞を楽しんだ。次に「文楽へようこそ」で技芸員により実演を交えた簡単な説明があった。休憩の後、菅原伝授手習鑑(寺入りの段/寺子屋の段)を鑑賞した。字幕もあり初めての方も皆様熱心に鑑賞され満足された。



文楽鑑賞は、実際の舞台での鑑賞に大変関心をもって臨むことができ良かった。